

小学校

平成 6 年 度

# 教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

平成 6 年度

教育研究員名簿（図画工作）

分科会	地 区	学 校 名	氏 名
A 分科会	台東区	忍岡小	◎ 河原俊明
	世田谷区	喜多見小	瓜田紀子
	杉並区	八成小	△ 坂上麻理
	豊島区	大塚台小	△ 竹内とも子
	江戸川区	平井小	内野 薫
	町田市	南第三小	志水 洋
	田無市	向台小	佐藤 ひろみ
B 分科会	新宿区	牛込仲之小	大底千里
	荒川区	第二辰巳小	○ 宮沢早苗
	板橋区	尾久小	○ 長谷川京子
	練馬区	中根橋小	池田秋子
	足立区	練馬第三小	市川和彦
	青梅市	中川東小	鈴木範子
		第 5 小	植松 竜司

◎全体世話人

○全体副世話人

△記録

担当指導主事

清水満久

教育庁指導部初等教育指導課

研究経過 4, 5, 6月 研究主題の設定, 研究内容と方法の検討, 研究授業  
 7月 研究仮説, 分科会の編成, 副主題の設定, 研究授業  
 8月 御岳研究集会(研究全体構想, 事例報告等)  
 9, 10, 11月 実証授業及び検討, 研究報告書作成  
 12月 実証授業及び検討, 発表内容の検討, 授業案の検討  
 1月 授業案の作成, 研究発表会(豊島区立大塚台小学校)

# 目 次

I	研究主題	2
1	研究主題設定の理由	2
2	研究の概要	3
II	A分科会の取り組みと実践事例	4
1	A分科会<表現意欲を高めるための題材の提案の工夫>	4
2	実践事例	6
(1)	「1994年+ 100年=」(サブテーマ: 未来の都市)	6
(2)	「もしも 心の中が のぞけたら」	8
(3)	「おもしろケーキをつくろう」	10
(4)	「カラフルしゃわふる」	12
III	B分科会の取り組みと実践事例	14
1	B分科会<自分らしい表現を展開していくための手だての工夫>	14
2	実践事例	16
(1)	「色糸の芸術家になって」	16
(2)	「ビニルスの繁殖」	18
(3)	「ギョ ギョ ギョ」	21
IV	研究のまとめと今後の課題	24

# I 研 究 主 題

## 一人一人の思いが生き、自分らしい表現を楽しむための支援の工夫

### 1. 研究主題設定の理由

21世紀を担う子供たちは、豊かな感性と主体的創造力を備え、社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間であることが望まれる。したがってこれからの学校教育は、子供自らが学習に対して意欲的・積極的に取り組む姿勢を育てること、更に学習に一人一人が主体的にかかわる心を育てていくことが求められていると考えられる。

図画工作においては、この能力を育成するために造形活動を通じてこれまでも主体的な創造力の育成を目指してきた。主体的な創造力は、急激に変動し続ける社会の中で、それに順応しながらも、振り回されることもなく、自分を見失わずに生きて行くための、最も必要とされる力といえる。子供一人一人がそれぞれに自分の思いをもち、それを表現したいという意欲にまで高め、創造力をはたらかせて発想や構想をし、自分らしい方法で表現していく総合的な力といえるだろう。子供の造形活動は表現本能に根ざした主体的なものである。子供は、感じたことや思ったことを何らかの方法で表現したいという欲求をもっている。その欲求を満足させ、表現・製作の喜びを味わうようにすること、子供が自らの考えや思いをもち、進んで材料・用具・技法にかかわって、自分らしさを発揮することが望まれる。

子供の主体的な創造力を育成するために、まず一人一人の自分らしい思いを育て広げることが大切であると考えた。一人一人の子供の思いを表出するためには、それぞれの子供の感覚や心が刺激され、表現欲求が喚起されることが必要である。子供は豊かな体感の中から表現へ興味、関心をもち視覚や触覚など諸感覚で感じとったことは、心に響き、それぞれの素直な思いが表出するものであると考える。

子供が体感することによって実感を伴って感じたり、想像し発見する活動をとおして自分らしさに気づいたり、自分らしさを求め、自分らしさを見つける。これは子供の自己表現活動の楽しさであり、豊かな情操を培い他の表現のよさを受け入れる心が育つ。自分らしい思いを生かし、自分らしい表現を楽しむために、個に応じた支援のあり方を探るため以下の研究主題を設定した。

- (1) 子供一人一人の感性にはたらきかけて心をゆさぶり、よさや可能性から発した自分らしい思いをもつことをどのように支援していくか。
- (2) 抱いた思いを表現意欲にまで高め、想像力をはたらかせて自分らしい発想や構想をし、さらにふくらませるために、どのように支援していくか。
- (3) 子供が思いを生かしながら、自分らしい表現を楽しむ過程で、さらに自己実現にむけて個々の場面でどのように支援していくか。

それぞれの支援が、子供の創造的な造形活動のために重要である。そして、どの場合の支援においても、子供一人一人がよさと可能性を内に秘めたかけがえのない存在であるという認識が根底にある。子供がどのような支援を必要としているのか、どのような支援があれば、自ら進んで、自分らしい造形活動を楽しめるかを研究していくこととした。

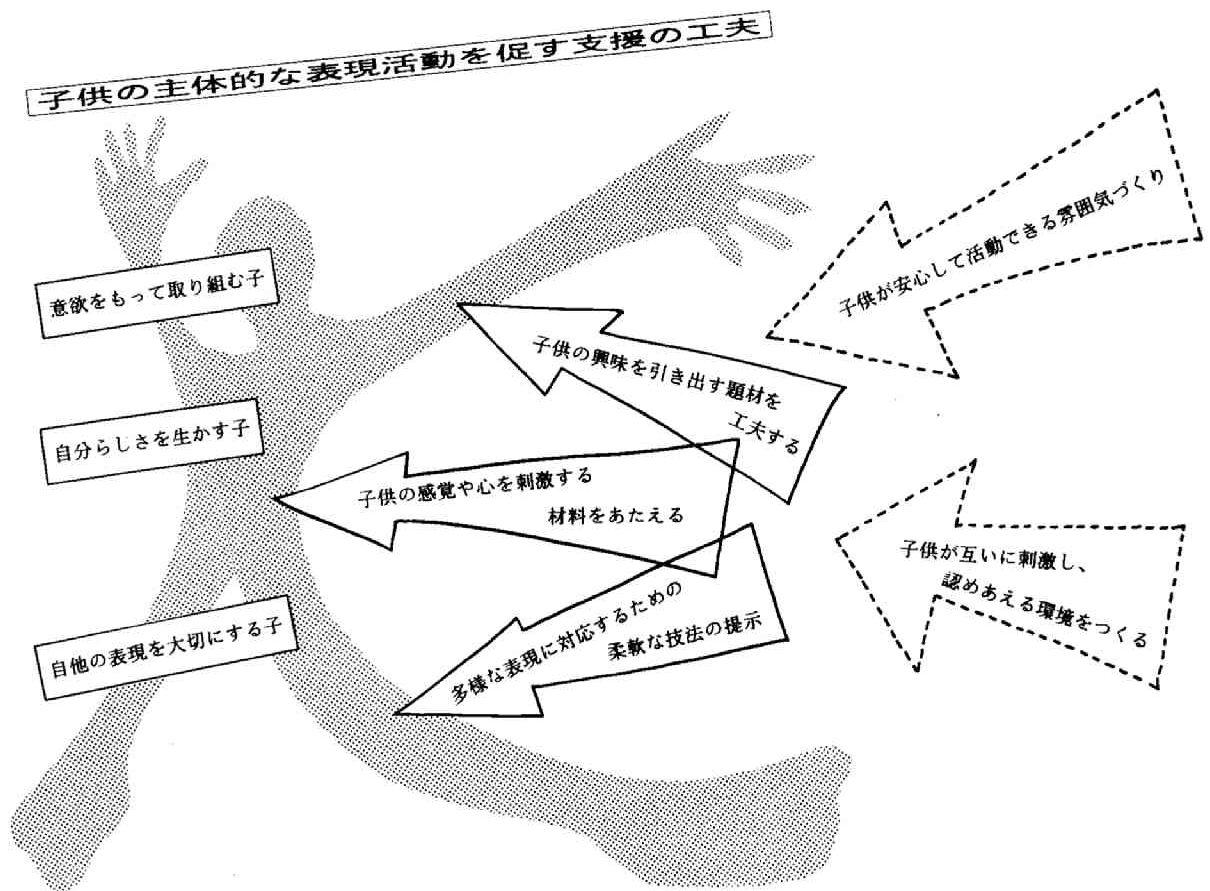
## 2. 研究の概要

一人一人の子供の個性は多彩である。着想、発想、構想、表現の傾向、技能、造形体験の豊かさ、そして生活経験などにそれぞれの違いがある。自己表現の場とも言える、図画工作では、まず一人一人の個性や特性を認め生かすことを重視している。子供の実態をふまえ、子供に目を向けた魅力ある題材に取り組むことが自分らしさを生かした表現活動につながる。人間として生きる力として本来もっている表現欲求を触発し、子供たちがそれまでに獲得してきた思いや力をもとにさらに意欲を高めることを重視して研究を進めた。

造形活動における子供のよさには率直であること、前向きであること、物に直接的にかかわろうとすること、怖いもの知らずであること、体験をふまえて伸びること等意欲や関心とかかわる面が多いことなどがあげられる。この子供のよさを生かし、感受性豊かに主体的に楽しみながら自己表現活動に取り組ませたい。子供の表現に広がりや深まりを展開させるためには、教師からの場面に応じた適切な支援が必要とされる。子供がそれぞれの思いを実現していく活動の中で、一人一人の子供に応じて、場面に応じてどのような働きかけが必要であるかを分科会ごとにテーマにそって研究を進めた。

A分科会テーマ「表現意欲を高めるための題材提案の工夫」

B分科会テーマ「自分らしい表現を展開していくための手だての工夫」



## Ⅱ A分科会の取り組みと実践事例

### 1. A分科会表現意欲を高めるための題材の提案の工夫

遊んでいる子供は、遊びそれ自体に夢中で、自己を充足している。遊びのなかで子供は、それぞれの思いを発散していく。この子供を遊びへかきたてていく要素を授業のなかに取り入れることができれば、自分の思いを生かしきった、なおかつ、表現を十分に楽しむ子供の姿が見られるのではないか。そこで研究の視点を以下の4つにしぼった。

#### (1) 子供の興味がわく、題材名や材料の工夫

題材名の工夫や材料の工夫をして子供を題材にひきつけるように工夫する。子供の感覚に合った題材名や工夫された材料は、子供の表現意欲を刺激し、一人一人の思いを自由に発揮していけるものとする。

#### (2) 子供の感性や意欲をゆさぶる提案・提示の工夫

子供に楽しいぞというシグナルを送り、表現への意欲を高める。そのために、子供に分かりやすいお話を取り入れ、表現への道筋をつける。あるいは、参考作品の提示、また、製作過程に合わせた示範や作品の提示など、教師の持味を生かして行うようにすることが考えられる。

#### (3) 子供が活動しやすい空間づくり

試しコーナーや材料用具の設置場所を工夫する。机の配置なども大切なことである。子供は、「自由に試してみよう。」「友達のやることも試してみよう。」という自由な雰囲気の中で活動し、おもしろそう！という発見をし、これならやれるぞ！という自信をもつと考える。自信を得た子供は、自己充足へむかって高まり、自分らしい表現を楽しむことへ進んでいくと考えられる。

#### (4) 人とのかかわり

遊びのなかの仲間遊びと、一人遊びについても注目することが大切である。仲間とのやりとりから、刺激しあい、共感しながら育つものもあると考える。そして、自分の表現を大切にしていく。そんな場も保障してやりたい。

また、教師も仲間の一人として、表現に戸惑っている子や、イメージをつくりあげることには困難を感じている子へアドバイスしたり、共感し見守るなど、サポートしていく必要がある。

以上の視点をもとに、各授業実践を分析し、次頁のように分類した。

題材名	1994+100年=	もしも心の中がのぞけたら	おもしろケーキをつくろう	
(1) 子供の感性や意欲をゆさぶる提案・提示の工夫 (2) 子供の興味や好奇心をわく、題材名や材料の工夫	教師の提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>穴あきボード、紙粘土、身近な材料、カラースプレー</li> <li>参考作品の提示</li> <li>製作過程また技術面の示範</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージの発表をしよう。</li> <li>心をのぞく扉をつけよう。</li> <li>色画用紙、ぼかし網、ブラシ、カッター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べると元気もりもりになるケーキのお話</li> <li>石膏、紙、釘、ストロー、ホイル、テープ、綿、針金</li> </ul>
	子供の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>早くつくりたい!</li> <li>こんな町にしたい!</li> <li>自分たちの都市、地球の将来を想像する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いついたこと、好きなことを話す。 (スポーツ、食物、趣味勉強、友達、将来について)</li> <li>友達の話にうなずく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立ち上がってのぞく。</li> <li>ウソダーと声を上げ興味津々。</li> <li>つくり方をのぞく。</li> <li>つくるぞ!とファイトを燃やす。</li> </ul>
(3) 子供が活動しやすい空間づくり	教師の提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品の提示または製作過程にあわせた示範作品の掲示また、教室全般の掲示。</li> <li>個人での製作場所と共同でできる場所の設定。 (机の配置など)</li> <li>材料用具の置場の工夫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料置場の物を自由に使ってみよう。</li> <li>いろいろな水彩技法作品の掲示をする。</li> <li>材料、用具置場の工夫をする。</li> <li>試しコーナーを設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料置場のものを自由に使ってみよう。</li> <li>「こんなものもあるよ」と材料を紹介する。</li> <li>材料、用具置場の工夫をする。</li> <li>石膏を扱った作品の提示をする。</li> </ul>
	子供の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>発想や技術面で悩んだ時参考作品や製作過程の示範作品できっかけをつかむ。</li> <li>個人での製作場所が狭かったり用具を必要とする時は共同の製作場所を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぼかし網でできた色のきれいさにひかれ、そこから表現する。</li> <li>扉を何枚も貼り重ねる。</li> <li>色紙をいろいろな模様で切ってはる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筒にする。</li> <li>パイのように包む。</li> <li>まるめる。</li> <li>副材料と一緒にちぎったり貼ったりする。</li> </ul>
(4) 人とのかかわり	教師の提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動毎に励ます。共感する。</li> <li>準備の不十分な子供に補助材料を与える。</li> <li>見守る。発想面や技術面で支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデアの浮かばない子へ声をかける。</li> <li>思いつきのよさに共感する。</li> <li>友達の作品を紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動がすすまない子へ声をかける。</li> <li>共感し見守る。</li> <li>励ます。</li> </ul>
	子供の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の作品のよさを学ぶ。</li> <li>用具の使い方を教え合う。</li> <li>アドバイスを受けて意欲を高める。</li> <li>発想面、技術面の支援による表現活動をスムーズに行う。</li> <li>完成作品をとおして、自他の作品のよさを学びあう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージを発表しあい、お互いのよさを知ったり刺激をうける。</li> <li>アドバイスを受けて自身をもつ。</li> <li>じっくり考える。</li> <li>鑑賞でお互いのよさを認めあう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手にけがをしていて、手が十分に動かせない子供どうし助けあう。</li> <li>アドバイスを受けて活動する。</li> <li>友達のよさを取り入れる。</li> <li>材料を分けあう。</li> <li>自分の作品や友達の作品について話しあう。</li> </ul>

## 実 践 事 例 (A 分科会)

(1) 題材名「1994年+100年=」(サブテーマ: 未来の都市)

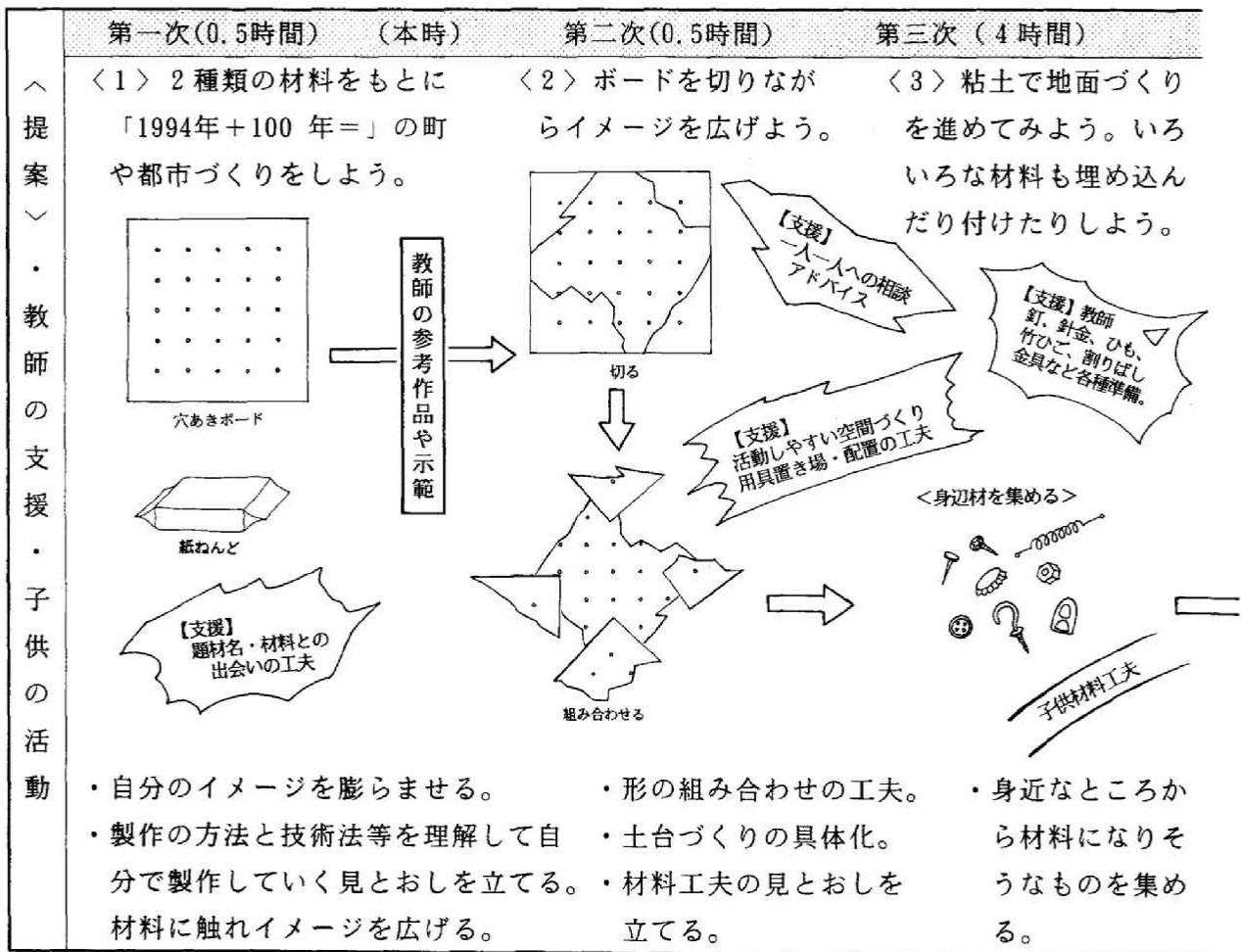
第 6 学 年

### 1. 題材設定について

「今日は何をつくるのかな」と楽しみに教室に来る子供の思いに、少しでも応えられるように、時間の経過・社会の変化に焦点をあて、自分たちの住む町や都市、更に地球規模で将来を創造していくことをねらいとして、この題材を設定した。

題材に関しては、木を使った工作が児童の希望の大きいことから板材を主に取り上げた。更に子供がこのテーマを幅広くとらえて、いろいろな材料を組み合わせ楽しく造形活動を展開していけるように、補助材料として加工粘土を準備して子供に提示した。

### 2. 学習の流れ (8 時間)



### 5. 考 察

提案1では子供は穴あきボードに大変興味を示した。題材名に関しては、どんな世界だろうと考えこむ子供もいた。教師の参考作品には、おもしろそう・やってみいたいという声もあった。穴あきボードを切る教師の示範では、早く製作に入りたいという声も多かったが、じっと手順を確認している子供も多いように思われた。

導入時の提案以後は、個々に思い思いの世界を自由に展開していたが、材料集めには子



### 3. 題材のねらい

- ・題材名から発想を広げ自分の思いの世界を立体に表現する。
- ・材料の組み合わせを工夫し、表現を深め楽しむ。
- ・自他の作品よりイメージや表現のよさを学びあう。

### 4. 材料・用具

教師：穴あきボード（30cm 正方形）、加工粘土、ひも、釘、針金、竹ひご、金具類、接着材、電動糸のこ機、金づち、ピンセット、ペンチ、カラースプレーなど。

子供：身近な材料（家庭で一人一人が探してくる。）

〈導入後の製作のようす〉



#### 第四次（2時間）

#### 第五次（1時間）

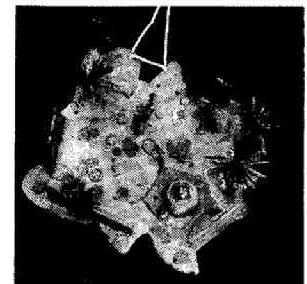
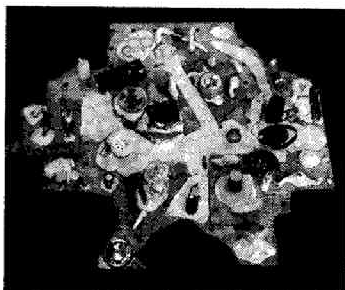
〈4〉どんな町や都市にしていこうか、自分なりの題名をそろそろ考えて製作してみよう。

〈5〉自分の作品のイメージを深めるために色の重なりを考え、色のスプレーをかけてみよう。

〈5〉完成した作品を展示パネルにつるして見よう。自分や友達の作品を鑑賞し、お互いのイメージを楽しもう。

【支援】  
子供の製作活動を予想して用具類の見通しを立てる。

金槌、紙やすり、接着剤、のこぎり、電動糸のこ機、か-スルー、水入れ、ピンセット、その他



・自分の思いが支援なしに展開できる子供。

発想面、技術面で自分の思いどおりにならない子供。

【支援】  
子供一人一人のかかわりを重視し言葉かけ・見守るなど配慮する。

・感覚をより深めながら着色していく。

・完成作品をすぐに展示して、製作活動の充実感を味わう。

・自他のよさを認め合う。

・次の製作への意欲をもつ。

子供一人一人に柔軟に対応し支援していくように心がけた。仕上げのスプレーでの段階では、微妙な色の变化に夢中になり、自分の作品と友達の作品とを比べている姿も見られた。教室内の限られたスペースを常に活動しやすい空間にしておくことが、製作意欲を高めていくことに重要である。

——1994年+100年=子供の答え——  
みしらぬ世界、宇宙の中に、不思議な世界、花火の世界、夢の世界、未来の都市（東京）、いろいろ遊べる国、機械の町、平和な町、自由な町、仲良し村、遊園地、思い出をつくる未来都市、不思議な地球、未来の大都市、宇宙空間の町、子供だけの世紀末の町、神秘的な町…

## 1. 題材設定について

子供一人一人が心の中を、自分らしい発想で主題を決めて、自由な方法で表現してほしいとすることから、「もしも 心の中が のぞけたら」という題材名を提案して、表現を促すことを考えた。一人一人が心の内にある思いを、水彩絵の具のいろいろな表現方法を取り入れながら製作し、それをとおして発想力・表現力を高めたいと考えた。

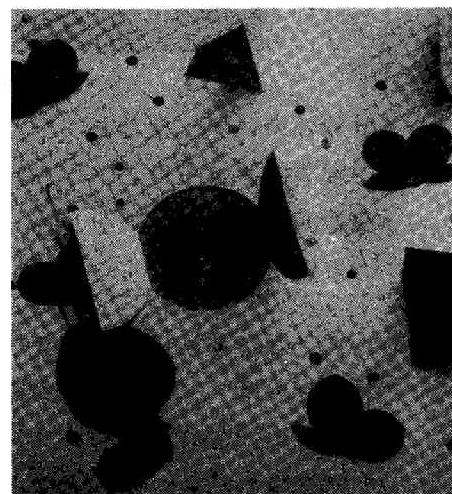
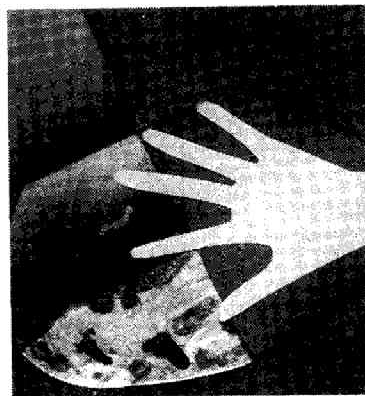
## 2. 学習の流れ

学	第一次 (0.5時間)	第二次 (1.5時間) 本時
習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材名からイメージを膨らませ自分なりの主題を決める。</li> <li>・製作方法を理解し、表現の見通しをたてる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心をのぞく扉を好きな場所に開ける。</li> </ul>
案	①心の中を表そう (心の中を絵にしてみよう) ②イメージの発表をしよう (どんな心の中があるかな?)	③心をのぞく扉をつけよう (はさみで切ってもよいし、やぶいてもよい)
支	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動への支援 (一人一人の製作への期待と思いへの言葉かけ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の支援 (ぼかし網、ローラーなどの様々な用具を用意しておく)</li> <li>・工夫を生むための支援 (いろいろな扉を紹介する)</li> </ul>
子	A・遊んでいる様子→ B・たくさんの扉→ 中はグチャグチャ C・おもちゃ箱をひっくりかえして→ いろいろ、散らばっているようす D・飛んだり、跳ねたり、動きまわっている→ E・100点をとったときのこと→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由研究について悩んでいること</li> <li>・(はじめの考えは、つまらない) →</li> <li>・バスケットのシュートをしたときの気持ち</li> </ul>

「夏の日の足あと」



「ほしくてしょうがない靴」



「いろいろな心の中」

### 3. 題材のねらい

- ・題材名から発想を広げて、自分の心を造形的に表現する。
- ・自分の心のイメージと、いろいろな技法をくみあわせて表現を楽しむ。
- ・自他の表現の違いに気付き、認め合う。

### 4. 材料・用具

色画用紙、ぼかし網、ローラー、スポンジ、ストロー、カッターナイフ、はさみ、サインペン、コンパス、定規など

第三次 (4.0時間)	第四次 (0.5時間)
・製作過程に基づいて、材料や活動から、 思いをまとめていく。	・鑑賞会をし、自分と友達の表現の 違いや、よさに気付かせる。
④イメージにあった表現方法で作品をつくろう。 (ためし紙で、いろいろな表現方法をためしてみよう)	⑤お互いの作品を鑑賞しよう。
・用具の支援 (用具がうまく使えない子には、 説明をしたり見本をみせる)	・子供相互が認めあえる場の支援 (それぞれのよさを、感じとる)
→A・自由研究について悩んでいること →B・海の夕日  →C・心の中が善と悪に分かれて、11年41日間にわたる争いをしている様子。  →D・(ぼかし網に熱中している) →ぼかし網でできた模様から、心のようなすをあらわす。 →E・100点をとったときのこと。	

### 5. 考察

「表現意欲を高めるための題材の提案の工夫」という分科会のテーマと、決められたとおり表現するのではなく、自分で表現したいことを決め、それに合った技法で広がりのある活動をしてほしいということから、題材名、材料、技法、などを設定した。子供たちは、「心の中がのぞけたら」という言葉に、飛びついていろいろなイメージを浮かべたようだ。表現へと移っていくなかで、「思っていることをストレートに表現した子」「心の中を探り絵にした子」「好きなこと、興味のあることを表現した子」と様々だった。なかでもイメージの発表をしあったことで、題材に対する意欲がより高められた。(イメージの発表→どんな心の中があるか、子供たちが自由に話す)表現の仕方にも、色でイメージ・具体的にかきこむ・仕掛けをつくるなどイメージにあった技法を組み合わせて表現していて、子供の発想の多様さに驚かされた。学習の流れに沿って子供の変化をみていくと、すこしずつ考えが変化した子、変化のなかった子と様々なタイプの子がいることがわかった。題材設定を工夫するという事は、子供一人一人の発想を大切に、よさを発揮させるということにもつながる。

1. 題材設定について

人間にとって食べることは命にかかわることであるとともに楽しみでもある。そこで、子供にとって魅力のある菓子類、ケーキづくりを題材にした。ここではきれいでそっくりなケーキというより、むしろ、大胆で量感がありユニークなケーキをつくろうということで題材の提案の仕方にお話を取り入れることで、工夫をした。新聞紙と木片で支持体になる部分をつくり石膏で感触を楽しみ、クリームにした。トッピングについては、材料を自分なりに工夫して製作ができればよいと考えた。

2. 学習の流れ

第一次 (0.5 時間)	—— 本時 ——	第二次 (1.5 時間)
◎自分が作りたい形のイメージを膨らませる		◎製作しながらイメージをさらに膨らませる
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     児童の活動                      話を聞いてケーキのイメージを膨らませる                 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     児童の活動                      ケーキのスポンジになる部分を新聞紙と木片で組み立てる                 </div>
教師の支援〔感性や意欲をゆさぶる言葉かけの支援〕 ある日見つけた本に不思議なケーキの作り方がのっていた。それをたべると元気もりもりになるという。		〔材料・用具の支援〕〔活動が進まない子への支援〕 新聞紙ってこんな使い方も出来るよね。木片も使ってセロハンテープと接着剤でもとになる部分をつくろう。
教師 「おもしろケーキの本 ⇒ 新聞紙と木片の提示 ⇒ 副材料の提示 をみつけたよ・・・」		
子供 の記 録	集中して聞く。友達と話をしていたのを中断して聞く。静かに聞く。 材料に触れて味わう。新聞紙で固まりをつくり始める。新聞紙をまるめる。	新聞紙をまるめたり木片をセロハンテープでつける。「ハンドバックケーキだぞ。」新聞紙の組み合わせを考える。 材料を積極的に取りに行く。自分でみつけた材料も使う。形を作り直す。 積極的に製作にとりくむ。製作しながらイメージを発展させる。もの静かに製作する。



新聞紙と格闘だ！



どんなケーキができるかな

### 3. 題材のねらい

- ・イメージを発展させながら，自分の思いを立体に表現する。
- ・材料にかかわり，その物のもつ特性を体感し，そのよさを味わう。
- ・製作活動を楽しむ。
- ・自他の表現の違いに気付き，よさを味わい，認めあう。

### 4. 材料・用具

白ボール紙・新聞紙・セロハンテープ・接着剤・画用紙・色紙・  
アルミホイル・スズランテープ・チョーク・石膏



パワフルケーキができたぞ

第三次 (3.5 時間)	第四次 (0.5 時間)
<p>◎材料とかかわりあいなから，思いを立体で表現する。</p> <p>児童の活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>飾りを工夫しながらつくる。 石膏を水で解いて感触を楽しむ。 思い思いに原型に石膏をつける。 石膏クリームのつけ方を工夫する。 石膏が固まりかけてきた時，かたまったあと自由にトッピングする。 絵の具やチョークでケーキに色をつける。 さらにトッピングを工夫する。</p> </div> <p>教師の支援〔材料・用具の設置場所の支援〕〔イメージ発展の支援〕</p> <p>〔材料の支援〕</p> <p>生クリームは何でつくろうかな？ トッピングはどうしようかな？ ケーキに色や飾りをつけてみよう。</p>	<p>◎完成した作品を飾り鑑賞する。</p> <p>児童の活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>思い思いの方法で飾る。 互いの作品を見る。</p> </div> <p>トッピング用の材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙</li> <li>・色紙</li> <li>・アルミホイル</li> <li>・セロハン紙</li> <li>・スズランテープ</li> <li>・針金</li> <li>・綿</li> <li>・ビニルテープ</li> <li>・チョーク 他・・・</li> </ul> <p>〔展示の支援〕〔共感・励ましの支援〕</p> <p>工夫して飾ってみよう。 友達作品を見てみよう。</p>

### 5. 考 察

今回の題材では，子供が教師の「お話」を聞きながら，それぞれのイメージを膨らませるところから始まった。パフォーマンスを交えながらの語りかけは，それなりに子供にとって興味・関心を高め製作意欲に結びつたのではないかと感じられた。思い思いに新聞紙と木片でケーキの土台を作り，石膏を扱う段階でも楽しみながら石膏の感触を味わっていた。トッピングでは，装飾的なものを好む子供や材料自体に触れながらそれを生かした表現をする子供などさまざまであった。結果的には，きれいな装飾的な作品になった子供もいたがそれぞれの思いを生かしながら楽しんで製作していたように思われる。

1. 題材設定について

高学年ともなると、水彩絵の具をパレットへ擦りだす際のわくわくした気持ちは2, 3年生のそれと比べると、薄れていると思う。さらにいえば、絵の具をつけた筆を画用紙に走らせるとき、“色”に対して子供たちがどのくらいの意識、あるいはこだわりといったものを持っているのか疑問に思うことがある。そこで、何色かの色水をそれぞれビニル袋に入れてつるし、爪楊枝で突いて生じた色水のシャワーを利用して造形活動を行うという、色との出会いに主眼をおいた題材を考えてみた。色に対するわくわくした気持ちが子供たちのなかで一層強まればと思う。

3. 活動の展開 (本時1時間扱い)

	児童の活動	提 案	教師の支援
導入 1 5 分 1	校庭で班ごと(1~8班)に座り、説明を聞く。	『カラフルしゃわふる』って何だろう。(題材名から興味をもたせる) 実際に、色水を作り、ビニル袋に入れてみせる。	<b>場の設定</b> 校庭。ビニル袋が吊り下げやすいように、うんていの近く。  (材料) ビニル袋 ビニルひも 水 絵の具 爪楊枝 和紙
展開 1 30 分 1	ビニル袋に水を入れ、そこに好きな色の絵の具を入れてよくシェイクする。 ビニル袋の口をひもで縛り、うんていや鉄棒に吊るす。	色は自由だけど、班のなかではほかの友達と色が同じにならないようにしようね。(色数の確保) 和紙は、友達どうし持って動かしてもいいし、一人で持って動かしてもいいよ。違う色の滴をどんどん重ねていってもいいよ。 (もちろん1色でも構わない)	<b>声かけの支援</b> 戸惑っている子供には、友達の色数などのちがいに気付くようにアドバイス。 <b>子供どうしの支援</b> 班のなかで助け合うように促す。
	できた作品を鑑賞する。(まとめ10分)		



## 2. 題材のねらい

- ・色水のシャワーで表現することの楽しさを味わう。
- ・ビニル袋に入った水の感触を味わう。
- ・色の濃淡、にじみの美しさに気付く。

## 4. 考 察

A分科会では、『表現意欲を高めるための題材の提案の工夫』をテーマとし、今まで研究授業において様々な試みがなされてきた。今回この授業では、とくに題材名、材料選び、場の設定を工夫し、授業の組立を行ったが、それぞれ工夫の内容を以下のように述べたうえで考察したいと思う。

### 題材名の工夫

今回の“カラフルしゃわふる”では、もちろんカラフルなシャワーという意味合いが込められているのだがそれよりも、言葉そのものの響きのよさやリズムカルな調子から子供たちに、遊びの要素を取り入れた授業の雰囲気を与えようと考えた。

### 材料選びの工夫

透明なビニル袋は、色水を入れて光（陽光）を受けたときの視覚的な美しさをねらって使用した。また和紙は、色の濃淡、にじみなどの効果を考えて選んだ。

### 場の設定の工夫

校庭で活動することにおいては、それだけで子供たちに解放的な気分を味わわせることができると思う。また、うんていに色水の入ったビニル袋を吊り下げることにより、普段見慣れた遊具が、例えば現代彫刻の作品に見えたりすれば面白いだろうと考えた。

以上のような題材の提案の工夫をし、授業を展開した。導入の場面では、やはり何人かの子供が、題材名の言葉遊び的な面白さに興味を抱いたようだ。“しゃわふる”からすぐにシャワーをイメージした子供もいた。ビニル袋に色水をつくって入れることがわかると、子供たちは用意しておいたクラス用の絵の具のチューブに飛びつき、さっそく色水づくりを始めた。混色しすぎて色を濁らせてしまった子供もいたが、たいがいの子供は1色か、2色の混色にとどまった。色水を入れたビニル袋が日ざしを受け、きらきら輝くようすを見て子供のなかから「きれいじゃん」という声があがった。いよいよシャワーを降らせて造形活動を行う場面に入ると子供たちは全身を使って和紙を動かし、行為そのものを楽しんでいた。

題材の提案の工夫がどの程度まで子供たちの表現意欲を刺激したか判断するのはむずかしいが、少なくとも授業の展開において十分に表現への意欲を高めたことは確かなようである。

### Ⅲ B分科会の取り組みと実践事例

#### 1. B分科会 自分らしい表現を展開していくための手だての工夫

子供たちが自分らしい表現をしていくために、学習の流れの中で一人一人の子供の活動を見て取り、適切な支援を行うことが望まれる。いろいろな素質をもつ子供たちがその個性や特性を十分に発揮するような表現活動に取り組みたい。子供の活動に常に目を向け、活動が子供のリズムやペースにのっていることを十分感じとれるようであれば、子供はその活動を楽しんでいると考えられる。その時その時の場面に応じて、活動の実態を把握しながら意図的に支援していくことが必要とされる。魅力ある題材の提示により興味と関心をもった子供たちにさらに自分らしい表現の広がりや深まりを展開させるために、子供の活動から出てきた欲求に適切に対応する支援のあり方を探ることを今回の研究のテーマとした。「その子らしさ」が生きている表現活動を行うために、どのような支援が効果的であるか、以下の視点にたって考えてみた。

##### (1) 材料との出会い・かかわり

感性を揺さぶられる材料と出会い、かかわっていく中で、子供はイメージーションのもととなる豊かな体感を得る。「何だろう?」「おもしろそうだな」「触ってみよう」一つの材料を手に取り、曲げたり引っ張ったり並べたりという単純な視覚・触覚活動の中で感性が目覚める。「これをどうしようか?」意欲がわいてくる。子供の表現欲求がどんどん触発されていくような材料を吟味し、選択する必要がある。

##### ① 感覚を刺激する材料

材料には、見ただけで表現欲求をかきたてられるようなもの、触っていくうちにいろいろと試みてみたくなるもの、全身を使って格闘できるものなど、子供の感覚を刺激するようなさまざまな性質や特徴をもったものがある。

##### ② 身近な材料の可能性を広げる

なんとなく見過ごしていた身近な材料でも、新しい提案をすることにより、子供にとって新鮮な材料として見直すことができる。材料の今まで気付かなかった性質に関心が向き、新しい表現方法に気付くなど、造形材料としての可能性を広げることができる。

##### ③ 副材料の提示

副材料を提示すると、子供の感性をやり戻し活動を広げるのに有効な場合がある。行き詰まったり困惑している子供に適切に提示すると、そこから新しい発想が生まれ、展望が開ける。場面に応じて子供が自ら進んで選択できるように提示の仕方を工夫することが大切である。

##### (2) 自分らしい技法・技術

表現の思い、表現の手順や方法などは、子供たち一人一人異なるものである。子供の活動に寄り添いながら、時には全体へ時には個人へ、次のような支援の工夫が大切である。その中で子供は自由に選択したり組み合わせたり試行しながら自分らしい表現を展開していこう。

##### ① 子供の経験呼び起こし、共感し認める



子供が日常生活や授業の中で既に材料と関わったことがあるとき、その経験を思い起こさせることである。学習の意図に応じて事前に計画的に経験させておく場合も考えられる。

②一人一人の子供の表現内容に応じて教師が提案する。

材料に関わる技法や情報の提示は、子供にとって表現を広げる助けとなる。つまづいている子供にとっては、発想を転換する機会ともなり得る。

③子供が見つけたり生み出したことを励ます

子供は既習体験や教師が新しく提示した技法・技術などを取捨選択しながら、自分にあった表現方法を見いだしていくものである。なかには、ちょっとしたきっかけからひらめいて、新しい方法を発見したり、試行錯誤しながら別の方法を生み出したりすることがある。このような表現活動の高まりについては、おおいに奨励し子供の活動を活発化させたい。

④子供どうしの刺激を促す

一人一人の表現の傾向を把握し、必要に応じて子供どうしの関わりをもたせる。お互いの良いところを認め合ったり、自分との違いを見い出していく中で、子供は自分のよさに気づきさらに意欲が高まる。

### (3) 子供の活動を豊かにする環境

子供が安心して活動できる環境は、一人一人の子供の個性を発揮させる。活動の広がる可能性を予見しつつ、見とおしをもって柔軟に対応することが大切である。全体としての活動の方向を見極めるとともに、子供一人一人の多様な活動に対応する支援となる。

①表現にむけて互いに認め合う雰囲気づくり

日ごろから教師と子供、また子供どうしの温かい人間関係を築き、共感したり認め合ったりするような雰囲気をつくる。自分の思いが受けとめられることによって、子供は安心して活動を展開していく。

②安心して活動できるための情報の提示

参考となる資料を提示して、子供の発想がふくらむようにする。直接紹介しなくても、さり気なく提示しておくことも考えられる。また作業の手順などを見やすい場所に掲示しておく子供は安心して活動できる。

③活動しやすい場づくり

予想される子供の活動から、学習に適した場所と机や椅子の並べ方を考える。また表現のための材料、用具を子供たちが自分の思いに合わせて見つけたり、選んだりできるように配置を工夫する。安全面についても十分な配置が必要である。

④イメージを触発する空間づくり

子供たちが自らの発想で十分活動できる空間は、大きな影響力をもつ。題材の設定に合わせて、物や音や光などを使った空間づくりをすることにより、子供のイメージが触発される。

⑤作品展示の工夫

互いの作品を鑑賞し合えるように、適切な場所に展示する。子供が表現の思いを継続してもつことができるように製作途中の作品の置き方にも配慮を要する。

## 2. 実践事例 (B分科会)

### (1) 題材名「色系の芸術家になって」

第4学年

#### 1. 題材設定の理由

「色系の芸術家になって」は、毛糸・色系などのひも類に、針金・枝・木片等を合わせた造形活動である。ひも類は身近にあって、手触りが優しく、色も美しいので子供が楽しみながら活動でき、結ぶ、編む、巻き付ける、束ねるなど様々な表現の広がりを期待できる。また、本校の4年生は5月に、鋸・げんのう・錐といった用具を経験したので、枝・針金・木片等の材料も加えることによってさらに一人一人の思いが膨らむのではないかと考えた。色系を巻く、絡める、編む等の活動が子供の材料感覚を豊かにし、表現力を高めることを願った題材である。

支援の工夫については、この実践の中では右のように指導案の中に「支援の内容と方法」を明示し、どのような活動の時にどのような支援をしたらよいか、見通しをたてようと試みた。

#### 2. ねらい

- ・色系や他の材料で表現することを楽しむ。
- ・材料に合ったつくり方を工夫し、用具を選んで使う。

#### 3. 学習の流れ

- 第一次 枝、針金等の材料と色系の特徴からつくりたいものを思いつく。(1/2時間)
- 第二次 色系を付けるもとになるところをつくりながら色系をどんなふうに使いたいかイメージを膨らませる。(1 1/2)
- 第三次 色系を使った活動を楽しみながら、つくりたい形を作る。(1)
- 第四次 完成させ、飾り方を考えながらみんなと飾って楽しむ。(1)


#### 4. 考察

##### ①材料との出会い・かかわり

ひも類として子供が持ってきたものは毛糸、刺繍糸、包装用のひも、リボン等。図工室では毛糸、麻ひも、レース糸、ビニロンテープを用意した。ひも類以外の材料では、子供が枝、ビニルネット、綿等。図工室に、枝、シナベニヤ板やたる木の切り落とし、針金、金網、ビニル

テープである。子供の活動に見られた表現方法は、おおよそ次のようなものだった。

学習活動	指導の内容	支援の内容と方法
	<p>〔準備〕 〔児童〕 ・教科書・筆記用具・はさみ・表現活動に使いたいとおもふ材料 〔教師〕 ・鋸・げんのう・錐・釘・万能ばさみ・ハイス・ペンチ・釘抜き・小刀・カッターナイフ・カッターマット・木工用ボンド・枝・シナベニヤ板切り落とし・針金・ひも類</p>	<p>●学習への意欲と材料を集める活動を支援する。</p> <p>①学習の予定と材料集めについて、一ヵ月前に予告する</p> <p>②予告した次の週から、教師が集めた材料を見せたり、児童から材料集めの様子を書いたりする時間を図工の時間の終わりなどにとる。</p>
第1次	<p>◆枝、針金等の材料と色系でつくりたいものを思いつく</p> <p>・集めた材料や図工室にある材料、用具</p>	<p>●材料からの発想を支援する。</p> <p>①枝、シナベニヤ板の切り落とし、針金等の材料を用意</p>
第3次	<p>◆色系を使ってできる活動を楽しみながら、色系や他の材料でつくりたい形をつくる。</p> <p>・色系を巻き付けたり纏んだりといった活動を楽しむ。</p> <p>・色系の手触りや色合を楽しむ。</p> <p>・色系を巻いたり纏んだりしてつくりたい形をつくる。</p> <p>・友達との材料の組合せ方や用具の使い方からヒントを見つけたら、自分のつくりたいものに取り入れていく。</p>	<p>●色系を使った活動の広がりを支援する。</p> <p>①麻紐、テグス、ビニロンテープ、毛糸等のひも類を材料コーナーに用意する。</p> <p>●新しい方法を考えたり、工夫を生むための支援をする</p> <p>①似た方向で活動する(材料、用具) 児童はどの子とどの子か把握しておく。</p> <p>→(色系を編む・絡める) 工作用紙などで「ひ」をつくったり、ヘアピンや針金で糸通しをつかって、編</p>

◇ひも類……・毛糸の撚りをほぐして  のようにする ・2本, 3本の色系を撚り合わせる  
 ・三つ編み ・プロミスリングを編む ・毛糸をほぐして綿のようにする  
 ・ぐるぐる巻いて団子にする ・切り刻む ・編み針で鎖編み, 細編み ・束にする。

◇ひも類+枝……・巻く ・絡める ・結ぶ ・いかだをつくる ・ぶら下げる ・テープでつける。

◇ひも類+針金……・針金を芯にして色系を巻き付ける ・絡める

◇ひも類+金網……・模様や自分の名前, 動物の顔等を編みこむ ・絡める ・結ぶ

◇ひも類+板……・蜘蛛の巣のように色系を張る ・板と板を色系でつなぐ ・貼る

▼子供の活動記録より

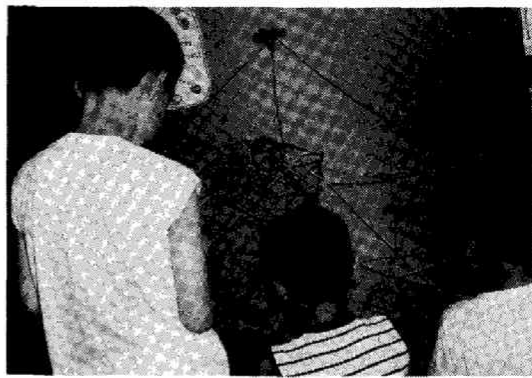
No.	ひも類			その他の材料				飾り方		操作活動
	毛糸	レース系	ビニロンテープ	枝	針金	金網	シナベニヤ板	置く	吊す	
1	○			○					○	・枝の先に「く」を巻きつける ・枝の先に「く」を巻きつける ・房にする
2	○			○	○	○	ビニルテープ		○	・絡める ・ぶら下げる ・結ぶ
3			麻ひも	○	○	○	布 ビニルテープ		○	・枝と枝を「か」の上で絡めつける
4	○	○		○		○	ビニルテープ		○	・枝の形に合わせて毛糸をきつく巻きつける ・ベニヤ板片に毛糸を巻きつける ・毛糸をいろいろな長さに切ってビニルテープで枝につける。
5	○			○	○	○	ビニルテープ		○	
18	○	○	葉子シマ	○	○	○			○	・三つ編みにして枝に巻く ・くぐり編みをして絡める ・枝に絡める
19	○				○	○	カラーシート ビニルテープ		○	・毛糸を針金にきつく巻きつけたものを橋にする
20	○			○		○			○	・三本まとめて結ぶ ・毛糸をほぐして綿のようにする ・金網にハニック針で毛糸を絡めて吊す ・かぎ針で編む
21	○	○	モール	○	○				○	・ぶらぶら下げる ・結ぶ
22	○			○		○	くぎ		○	・三つ編みにして巻く ・結ぶ ・針金に巻きつける ・短く切って吊す
23	○				○	○	画用紙 筆の葉		○	・金網に水色の毛糸を くぐり編みをして池に見たてる 毛糸をほぐして綿のようにする (筆の葉は池の周囲に貼る)
24	○		バイステープ リボン フックの毛 モール 葉子シマ	○		○			○	・針金に巻きつける ・くぐり巻いてかぎ針で編む ・結ぶ ・編む
25	○			○		○	わた		○	・板と板をきつく つなげる ・三つ編みを編んでふんわり にする (タコ糸の太さを合わせる)

②技法・技術

子供が新しい方法を考えたり工夫を生むための支援として, 材料や用具の選択など同じように活動する子はどの子とどの子か把握しながら助言や援助ができるように心がけた。金網に毛糸を編みこみたいがなかなか糸が通らず, 「先生, 針かなんかない?」という子供には針金を曲げて糸通しを作ったり, 毛糸の先にセロハンテープを巻いている子供の様子を見せたりするという具合である。今までに経験した用具は使いやすいように用意するとともに, 丸い枝に釘を打つときは布を敷くと安定する, 小さな木片はバイスで挟んで切る等新しい技法も紹介し, 子供の要求に応じて活動を助けられるようにした。



▲板切れの穴に金網を張り、毛糸を通して猫の顔に「プロミスリングもつくってつけたの。」



▲枝に金網をつけ、毛糸を絡めていく。「二色ずつ（撚って）つかうんだよ。」


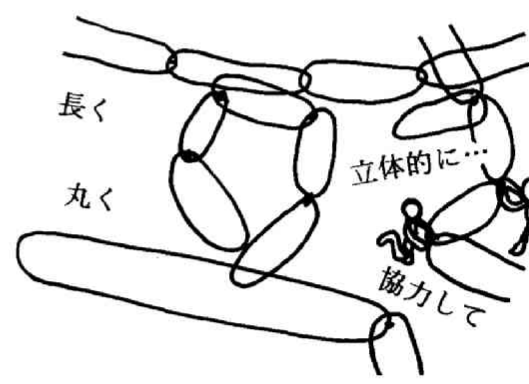
### ③環境

図工室に大きな枝をたて、色糸を絡ませたりぶら下げたりしておいた。雰囲気があると同時に、色糸に触ったり、持ってきた色糸を枝に結んでみたりする子供もいた。次の週末での保管場所は、学級前のオープンスペースにある移動式のロッカーの上とした。毎日子供たちの目に触れるので、つくりかけの友達の作品を見たり、自分の作品に触ってみるなどして興味が続く互いに刺激しあえた。また、材料や用具はコーナーを決め、子供たちが自由に選んで使えるようにした。

## (2) 題材名「ビニルスの繁殖」

第6学年

### 3. 学習の流れ（2時間）

提案	1. ビニルに空気を取り込んで、「ビニルス」という物体をつくろう！	2. 「ビニルス」は空気をえさにして、どんどん繁殖していく…
子供の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビニルの感触を楽しみながら、「ビニルス」をつくる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ビニルス」を思い思いにつなげていく。</li> </ul> 
支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走り回れる広い空間—体育館に場を設定する。</li> <li>・体感を直接的に形に表すことができる。材料（ビニル）を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの思いでつなげていくことを見守り、共感する。</li> <li>・つなぎ方をいくつか提示、助言する。</li> </ul>

## 1. 題材設定の理由

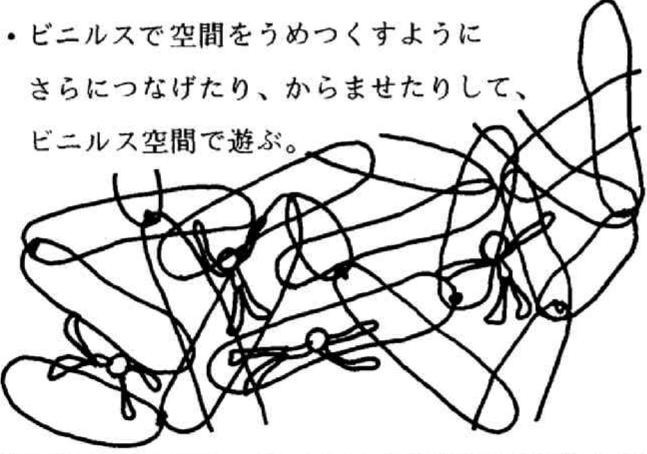
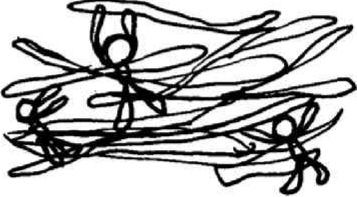
感覚を刺激することを目的とした造形活動は、作品は残らなくても、その行為・出来事は子供の感性を揺さぶり、その体験は自分らしい表現を導くための大きな力となり、子供一人一人の個性を呼び覚ますものとなるだろう。

子供たちは、自己中心的であり、思いや欲求を隠さない。それゆえに“物”に対して感覚的で、直接的に何らかのアプローチをこころみる。人間が本来もっている自己表現とはこういうことではないだろうか。

高学年の子供は、客観的に物の見方や描写力を身につけていく反面、自己表現することに消極的になることが多いと言われている。知覚の発達とともに、本や雑誌などの文字からの情報やテレビやファミコンの画面の中での疑似体験により“物”や“空間”に対して間接的に関わることが多い。そんな彼らに、いやおうなく全身を使い、直接的に諸感覚をフル活動させるような表現活動を展開させたいと考えた。

## 2. ねらい

- ・透明で実在感の乏しいビニルが空気を取り込み変化するようすやその感触を味わう。
- ・空気を含んだビニルを思い思いにつなげて増やし、“繁殖させる”ことを楽しむ。
- ・体育館いっぱいのビニルの存在によりいつもと違う体育館を体感し、ビニルの重なりをおおしてみる空間のおもしろさを味わう。

	<b>4. ビニルスを消滅させよう！</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ビニルスで空間をうめつくすようにさらにつなげたり、からませたりして、ビニルス空間で遊ぶ。</li></ul> 	<ul style="list-style-type: none"><li>・ビニルの破裂の感触、音を楽しむ。</li><li>・ビニルの集まりに埋もれる。</li></ul> 
<b>3. 合体ビニルスを空中につりあげる。</b> 空間に浮遊する物体として、子供たちの視点を変える。	<ul style="list-style-type: none"><li>・安全面に配慮する。</li></ul>

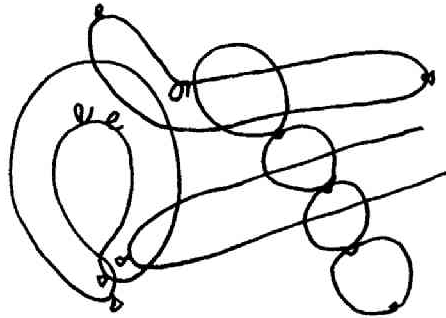
#### 4. 考 察

##### ①材料との出会い・かかわり

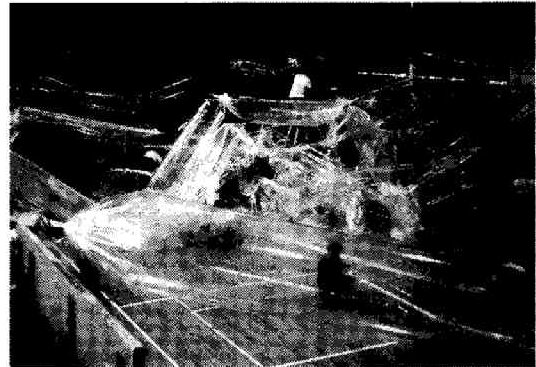
子供が、体育館いっばいに走り回って、「ビニルス」づくりに熱中した。ビニルに空気をパンパンに入れて、その感触を十分に味わっていた。空中に飛ばしたり、長い長い「ビニルス」をつくったり、パンパンにふくれた感触にこだわり送風機で空気を加えたり、入れ過ぎて破裂させたり、さまざまな材料の材質や特性を肌で感じていた。

##### ②技法・技術

ビニルに空気をいれて、輪ゴムで止めるという簡単な操作で、自分よりも大きなビニルの物体ができていく。「ビニルス」に何か所か、くびれをつくっていったり、体育館の横幅ほども長いビニルスをつくったり、穴の部分をつまんで曲がった「ビニルス」をつくったり、丸くとめたり、からめたり、ひっかけたり、バスケットゴールにつな



いで、空間に活動を広げていった。活動自体が単純で簡単であることは、一人一人が表現意欲を高め、思い思いの活動を展開させることにつながるといえる。



##### ③環 境

初めは、一つの「ビニルス」づくりに夢中になって遊んでいたが、やがて何人かで合体させ空間にもスムーズに活動を広げていった。自分たちで作りだした不思議な空間を「風船の世界」「シャボン玉の国」などという感想も聞かれた。イメージをふくらませるような音楽のなかでの活動や、空間にいっばいになったビニルに色の光をあてた演出も考えた。

最後に「消滅させよう」ということで、歓声とともにすばらしい勢いで片付けが進んだ。





## 1. 題材設定の理由

この学年の子供たちは、とても素直で、熱心に製作活動に取り組む子供が多い。またそれに加えて、表現や活動が多様であるので、一人一人にふさわしい支援をすることにより、個性豊かな表現活動がさらに期待できる。

4年生くらいになると、写実的な表現へと目を向け始めた子供のなかには、自分の意図と表現力との隔たりに悩んでしまい、絵を描くことに消極的になる傾向の子供もいる。また、この学年の子供たちが一学期に描いた絵の感想を見ても、色がはみ出てしまって失敗したとか、Aさんの作品は色が濃くはっきり塗れていてとてもうまいなど、頭の中に、うまい絵はこういう絵、下手な絵はこうというような考え方が、すでにできてしまっている子供も少なくない。そのうまい絵と自分の描いた絵を見比べてしまい、がっかりして自信を失い、絵を描くことの楽しさまでも忘れてしまう子供たちがいるのは確かである。

そんな子供たちにも、現実に左右されない自分の想像・空想した魚を、自分らしい表現方法を使い、材料や用具を生かして、既成概念にとらわれずに自分の思いを絵に表すことができる題材である。

## 2. ねらい

- ・主題を主体的にとらえ、自分なりの魚を想像・空想して表現する。
- ・材料や技法を生かし、表現方法を工夫して表す。
- ・自分の思いを生かして、楽しんで活動する。
- ・友達の作品の工夫しているところなどを関心をもって見る。

## 3. 学習の流れ

前題材「色の魔術師になろう」（本題材につながる学習）

- ・色に関する、たくさんの技法を体験する。
- ・色で遊ぶことを通して、楽しみながら新しい発見をし、興味・関心をもつ。

第一次（20分）・学習への興味・意欲を高める。

- ・どんな魚をどんな表現方法で表したいか思いつく。

第二次（70分）・自分なりの魚についてのイメージを広げ、構想を練る。

- ・いろいろな技法を応用して、自分の作品に生かす。

第三次（90分～180分）・作品に使いたい材料を見つけてくる。

第四次（45分）・作品を完成し、題名をつけたり、飾り方を工夫して展示する。

- ・作品を鑑賞し、表現のよさを楽しむ。

材 料 ・ 用 具	ミューズボード・画用紙・和紙・段ボール・	絵の具	ぼかし網	はさみ
	テープ・リボン・紐・針金・アルミホイル・	ペン	ローラー	接着剤
	セロハン・綿・発泡スチロール・木端・砂・	クレヨン	スポイト	古新聞
	その他子供が自ら必要とする材料を持参	マーブリング液	ストロー	雑巾

展期計画	第三次
学習のめあて	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いろいろな表現方法を使い、発想を広げながら表現する。</li> <li>●作品に使用したい材料を見つけてくる。</li> </ul>
全体指導による支援★	★子供の発見した新しい方法や工夫を紹介・励まし、活動の意欲につながるようにする。☑ ★全体へ知らせたいような工夫や、失敗が多い技法など、どうしたらよいかを知らせる。☑
子供の活動 子供の多様な活動への支援☆	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">活動の進行状況</div> <p>A <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どんだん作業を進める子供</span> ☆見守る・共感する☑</p> <p>B <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">技法のやり方がうまくいかない子供</span> ☆技術的アドバイス☑</p> <p>C <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イメージにあった作品にならない子供</span> ☆技法の紹介☑ ☆肯定的助言や励まし☑</p> <p>D <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">技法や材料で選んでいるだけの子供</span> ☆作品につなげるためのアドバイス☑</p> <p>E <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まだどうしようか迷っている子供</span> ☆デザインや技法の紹介☑ ☆友達活動を参考にさせる☑</p> <p>F <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友達関係で左右されやすい子供</span> ☆自分だけの工夫も欲しい☑</p> <p>G <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">描き直したいという子供</span> ☆励ます☑ ☆描き直させてもよい☑ ☆子供と一緒に良い方法を考える☑</p> <p>H <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">完成した子供</span> ☆紹介する☑ ☆次の活動の指示☑</p>
(1)材料との出会い・関わり ☑	
(2)技法・技術 ☑	
(3)環境 ☑	
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">体験した技法の使い方</div> <p>A <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">絵の具などで、今までのような表現方法で製作する子供</span></p> <p>B <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一つの技法を使う子供</span></p> <p>C <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">多種の技法を組み合わせる子供</span></p> <p>D <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新しい技法を見つけて製作に生かす子供</span></p> <p>A~D ☆子供の多様な活動を認める☑ ☆共感し励ます☑ ☆紹介する☑</p> </div> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">教師への関わり</div> <p>A <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">質問をよくする子供</span> ☆適切なアドバイスをする☑ ☆自分でよく考えさせる☑</p> <p>B <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">集中して製作をする子供</span> ☆声をかけて励ます☑</p> <p>C <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教師の提案のとおり製作を進める子供</span> ☆児童の思いや技能にあったアドバイス☑</p> <p>D <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の考えで製作を進める子供</span> ☆細かいことは指示しないで見守る☑</p> </div> </div>
指導上の留意点	◎同じ技法などを使っていて、同じグループのほうが活動しやすい子供は、席を移動してもよいことを知らせる。☑ ◎どんな子供の活動でも肯定的な評価をし、共感し、励ましのことばかけをする。場合によっては黙って見守る。☑ ◎新しい材料(セロハン・綿・木端・発泡スチロールなど)を用意しておく。☑ ◎作品が早く完成した子供は、段ボールで、魚をつくるようにする。☑ ◎製作が遅れている子供は、休み時間や放課後に、図工室を開放する。☑





#### 4. 考 察

- ・「ギョ ギョ ギョ」という言葉を子供たちに投げかけることから始まったこの題材は、すんなりと子供たちの心の中に入り、興味や意欲を高めるのに、とても効果的な題材名であった。「ギョ」という言葉から魚をイメージする子供と、「ギョギョギョ」という言葉から何かびっくりするようなイメージをもつ子供と大きく二つに分かれたが、どこにもいないような、びっくりするような魚を描こうという提案へとつながっていった。

##### ①材料との出会い・かかわり

自分で見つけてきた材料や教師が用意した材料を使って自由に表現していたが、ある一つの材料に子供たちが主体性なく集中してしまうことのないように、その材料独自がもつ魅力の度合や、材料の提示のタイミングを考慮する必要がある。

また、多様な材料を貼ったり、穴をあけたりするのに耐えられる紙として、ミューズボードを使用したことにより、表現活動の広がりが見られた。

##### ②技法・技術

前題材（色の魔術師になろう）の活動で、新しい技法・技術（ブラッシング、マーブリングなど）を楽しみながら体験学習したことにより、子供たちが絵に表すための表現方法の幅が広がり、今までの既成概念の枠をのりこえ新しい発見があった。

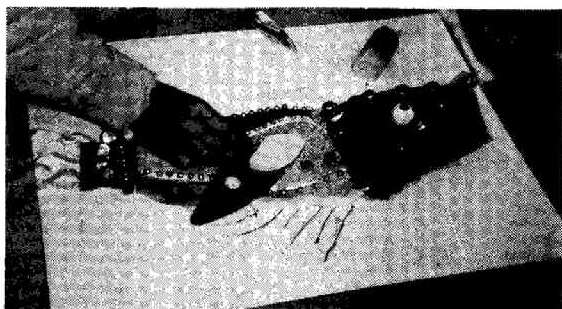
絵の具で今までのように彩色することが苦手で、自分の満足できる絵にならなかった子供も、指導者が間口を広げることにより、子供たち自身が選んだ表現方法を使い、すべての子供が楽しみながら自分の思いを表現できるようになったと思われる。

##### ③環 境

環境から受ける児童への影響力を考え、図工室の美化・提示物などによる教室環境を普段から整えておく必要がある。また、材料・用具の設置場所を工夫し、子供たちが自主的に使い、片付けられるような、子供が自ら使いやすい図工室にすることも大切であろう。

さらに子供同士の影響力の強さにも目を向け、座席やことばかけなどの工夫が必要であり、また、子供同士や教師と子供の温かい人間関係も築いておきたいものである。

- ・子供の自分らしい表現を展開していくための手だてとして、子供の活動の自由性を保障していくことが重要になってくると考える。そこで、子供の活動の様子を授業前にある程度予想する形式で、左頁のような学習指導案を作成した。活動の進行状況を中心に、製作の方法や、体験した技法の使い方、教師へのかかわり方の特徴をもとに整理して一



人一人の子供たちに対応する支援の方法を考えた。それによって、教師の予想を越えて活動する子供たちもいるが、ある程度広い視野で子供たちを見守ることができ、その中での自由に伸び伸びとした子供たちの表現活動を可能にさせるものであると考える。

## IV 研究のまとめと今後の課題

子供たち一人一人が自分らしい表現を楽しむために、私たち教師はどのような支援を考えていくか、A分科会「題材の提案の工夫」、B分科会「表現活動を広げる工夫」に焦点をあてて研究した。子供たちが心から充実して楽しむ姿は、自分らしさを生かした活動の中にある。実践授業を通して、支援の実態をとらえ追究した。

### 1. 研究のまとめ

A・B分科会の研究の視点に基づいて考察し、以下の点が明らかになった。

- 子供の諸感覚を通して直接的に得た体感の豊かさから、子供の素直な思い（興味・関心）が生まれた。
- 教師や、友人とかかわりやすい雰囲気は、子供に安心感を与え、素直な活動の展開を促した。他の表現のよさを認めたり、互いに刺激を受けながら自分らしさを発揮できた。
- 学習活動に遊びの要素を取り入れて、子供たちが遊びながら活動することを通して、子供たちそれぞれが自分らしさを発揮し活動を楽しむことができた。そのため子供自ら進んで楽しく活動したり活動を深めたりすることができた。
- 活動の内容により、子供の活動場所の確保が必要であった。活動に見合った十分なスペースを用意したことで子供の多様な活動がひきだされた。

### A分科会のまとめ

- 題材に合わせて言葉そのものの響きのよさやリズムカルな語感を考えて題材名を提案することは、子供たちに授業の雰囲気を伝えたり、興味をひきだすのに有効であった。
- パフォーマンスの提案は、子供の興味を引き出しイメージを発展させ、意欲を高めた。
- 子供にとって新鮮な材料を提示することは、子供の表現意欲をそそり、積極的な製作活動につながった。

### B分科会のまとめ

- 題材や材料の扱いはシンプルな方が表現への思いがふくらみやすく、身体全体感覚で造形活動に主体的に取り組む姿勢がみられた。
- 子供がそれまでに経験してきた中からさらに新しい情報を得ることによって技術や技法を取り入れたり選択するなど、自分らしい発想で表現活動をすることがみられた。
- 活動の中でさまざまな選択肢を提示するようにした。そのため、表現の方法や方向を子供自ら見つけだしたり選択するようになり、自分らしい表現活動を展開していた。

### 2. 今後の課題

- 造形活動は一人一人の子供の発想で、主題や材料が選ばれつくる過程が工夫され、伝え合う方法や発表しあう場などが設定されて展開される必要がある。低学年から高学年への過程で繰り返し子供に体験や実感をもつことを重視した題材設定や題材の配列などの工夫も大切である。子供の活動のながれから、さらに発展した表現活動へつなげていく授業の展開が望まれる。

子供一人一人のよさの表れに対して、認め、励ます指導観を根底にもち、一人一人の子供の表現活動を共感的に理解し、表現の特性に応じた望ましい支援を工夫したい。